

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 地域でくらす会 いくのさん家	理事長	井上徹	法人・事業所の特徴	法人の理念 <ul style="list-style-type: none"> ・関係性こそ、その人らしさ ・どう生きたいか、に立ち返る ・ひとりの支援は、地域を変える この理念をもとに、高齢者が自分らしく生活できるよう支援していきたい。そのために住み慣れた地域での社会生活が孤立してしまわないように信頼関係を作り、関係を深めていきたい。施設の中で支援をするだけでなく、家族や地域・医療など本人を取り巻く様々な関わりが途切れてしまわないように努力する。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 大郷いくのさん家	管理者	瀧村 篤		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	2人	2人	1人	0人	1人	0人	0人	0人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所評価はもっとまとめて読みやすくする。 ・評価については事前の説明をもっと適切に行う。 ・運営推進会議ではサービス評価の改善状況についても報告や相談をする。 ・長期的な目標について達成できるように、短期目標の達成を積み上げられるようにミーティングや会議を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の目標を把握しきれないので、実践できてなかった。 ・地域との関りについては努力する事ができているので、継続する。利用者さんが住んでいる地域をもう少し掘り下げる事で、より良い支援に繋げる事が出来る。 ・研修への取組みが弱い。 ・個人情報管理についてももう少し徹底が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所評価がわかりやすくなっていて、今回は評価がしやすかった。 ・沢山評価しておられたので、しっかりと(仕事に)取り組んでおられると感じた。 ・研修は時間や人手がないと思うが、色々な研修が開催されているので、情報を周知してはどうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の計画と同様に評価はまとめて、分かりやすい表現を使い、事前に評価について説明をする。 ・推進会議で改善計画の進捗状況について報告する。 ・管理者は、事業所の職員が外部の研修に参加出来るように情報を提供すると共に勤務を工夫する。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・今の環境を継続する(前年の計画を継続) 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境を維持する事ができ、目標を達成する事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の人でも事業所のことを知らない人がまだおられるので、チラシなどに地図をのせてはどうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の場所をチラシ等で周知する。場所を伝えるだけでなく、入りやすいように、行事に招待したり、地域行事に積極的に参加する。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・年間行事で地域に出向く計画を作成する。 ・他事業所のように趣味などを通して地域と繋がれるようなケアプランを作成する。そのために“私の暮らしまとめシート”(居宅サービス計画書に代わ 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間行事で地域の方に来てもらったり、地域行事に参加する計画を立てて、実践する事ができた。 ・“わたしの暮らしまとめシート”を少しずつ記載できているが、まだまだ詳細に記載す 	<ul style="list-style-type: none"> ・“わたしの暮らしまとめシート”がどんなものか分からない。 ・“相談できる場所”という認知がされていないのもっとアピールが必要。(独自の広報誌を作ってみては?) ・地域行事にもっともっと参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事に参画できるように、まずは行事に参加する。 ・介護相談ができる場所であることや普段の活動を伝えるために、地図入りの広報誌作成を検討する。 ・地域行事に参加する時は、“い

	<p>る物)をもっと詳しく作成する。 (前年の計画を継続)</p>	<p>る必要がある。</p>	<p>して、地域のことを知ったほうが良い。できるなら参加ではなく、参画するくらいになってはどうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事に参加してもらっても、いくのさん家の職員さんかどうか分からないので、分かるようにしてみてもどうか？ 	<p>くのさん家”の職員だと分かるように目印をつけるようにする。</p>
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘の通り外（地域）へ出ることを意識して支援に取り組み、閉じ込めにならないようにする。 ・地域の方にももう少し認識してもらえるように工夫する。 ・ケアプランの積み重ねを大切にし、利用者さんの〇〇したいの実現に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人差はあるが、〇〇したいの実践ができています。 ・施設の中に閉じ込めにならないように、ご本人の意思決定を重視した支援を心掛けたが、安全面から、制限をすることがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方が会議に参加するのはハードルが高いかもしれないが、情報提供をして、いつでも連携をとれるようにしておくのも1つの方法だと思う。 ・普段の付き合いが大切。何かあった時に連絡や相談ができるように関わりを持つべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者さんの個別のケースに応じて、近所の方やとなり組福祉員さんなどに声掛けをお願いすることで、地域の方と一緒に使って利用者さんの暮らしを支えられるように支援をする。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で事例検討を通してもっと色々な方と関れるようにする。 ・利用者さんの地域の方への働きかけを継続する（挨拶や協力：見守りや施設への連絡などの依頼）。 ・不定期の参加でも良いので利用者さんのご家族に会議への参加をお願いする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討を継続して実行できた。 ・計画は概ね実行できていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討は様子が分かって良いので続けてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の改善計画を継続して、運営推進会議を利用者さんの支援や地域課題の解決に活かせるようにする。
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に機能できるように避難訓練の内容を住民と一緒に考える。 ・湖南地区での過去の災害の事などを調べて備えをしてみる。 ・防災計画について誰でも見れるように計画書を掲示または設置をする。 ・備蓄について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に考えた避難訓練を実行する事ができた。 ・災害について調べたが、詳しくは分からなかった。 ・防災計画は掲示ではなく、閲覧可能にして設置することになった。 ・備蓄を検討したものの、購入までには至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練に参加していない。 ・避難所として指定がないので頼るのは難しく、むしろ支援が必要だと思う。 ・避難が難しい時の事を想定したマニュアル作成が必要。 ・普段どれくらいの方が利用しているのかを伝えておく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災計画を見直して、被災時に避難できない場合の行動マニュアルを作成を検討する。 ・色々な人に防災訓練に参加してもらえるように企画・実行する。